

保護者の皆様

札幌市立栄町小学校
校長 荻澤 吐夢

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

仲秋の候、保護者の皆様には、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして、深い御理解と温かい御支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、4月に、小学校第6学年と中学校第3学年の児童生徒を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。全国の義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより教育の結果を検証し、改善を図ることを目的としています。その調査結果が、先日札幌市教育委員会より公表されております。

つきましては、本日、本校の概要を配付し、学校ホームページにも掲載いたしました。御家庭でも今後の学習に役立てるよう御配慮いただければ幸いです。また、本校としましては、札幌市の他の学校同様に、平均正答値などの数値結果の公表はしませんが、学校として調査結果を分析し、本校児童の学習状況や調査における課題・改善の方向について今後の授業改善に生かし、児童の学習活動が更に充実したものとなるよう努めていく所存です。

今後とも、本校の教育活動に御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

児童質問紙調査より

全国平均値と比較し肯定的な回答が多い項目

- ① 自分には、よいところがあると思いますか
- ② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- ③ 人が困っているときは、進んで助けていますか
- ④ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- ⑤ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ⑥ 学校に行くのは楽しいと思いますか
- ⑦ 読書は好きですか
- ⑧ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- ⑨ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか
- ⑩ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

全国平均値と比較し肯定的な回答が少なかった項目

- ① 朝食を毎日食べていますか
- ② 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
- ③ 友達関係に満足していますか
- ④ 算数の授業の内容はよく分かりますか

児童質問紙結果から

①②③⑤

子どもたちの自己承認の感度が上がってきていることが分かります。「自己存在感（自分が大切にされている）」「自己肯定感（自分を肯定的に捉える）」「自己有用感（他者のために役立った、認められた）」この三つが相まって自己承認が成り立ちます。また、「他者への承認」と「他者からの承認」が自己承認と相まって、**相互承認**が成り立ちます。御家庭と学校が同じように子どもの思いを受け止め、正當に評価し、認めることで、「自己承認」だけでなく、この「相互承認」の感度が更に高まっていくと考えます。

②③

その一方で、肯定的な回答が少なかった項目から、子どもたちが人間関係の構築を難しく感じているということが分かります。友達との関係に満足していないと感じるということは、関係をよくしていきたいという意識があるからこそです。そこで我々は、仲間と関わり合う機会を意図的に設けて、関係構築の一助となるよう関わっていきます。また、教職員が子どもの声を聴くことに重点をおき、子どもと真摯に向き合うことで、良好な関係性が生まれ、安心して学校生活を送ることができると考えます。

【国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」
「情報の扱い方に関する事項」
「我が国の言語文化に関する事項」
「話すこと・聞くこと」
「書くこと」
「読むこと」

全国平均と比較して、ほぼ同程度であるが、やや下回る
全国平均と比較して、ほぼ同程度であるが、やや上回る
全国平均と比較して、上回っている
全国平均と比較して、ほぼ同程度であるが、やや上回る
全国平均と比較して、ほぼ同程度であるが、やや下回る
全国平均と比較して、ほぼ同程度であるが、やや下回る

【今回の調査における課題】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること（書くこと）
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること（読むこと）

【改善の方向】

- 漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにする学習活動の充実を図る。
- 文の構成を考える、報告書や説明文と意見文の違いを知る、図表を用いて文章との対応を考えるなど、文書を書くためのスキルを身に付けられるよう、文章に親しみ、試して書いてみる機会を意図的に設定する。
- 用いられている資料と文章との対応のみを扱うのではなく、資料を必要度から捉え直し、資料の意味や価値を考える場面を意図的に設けることで、書き手の意図を考え、必要な情報は何か自分で考えられるようにする。

【算数】

「数と計算」 全国平均と比較して、下回っている
「図形」 全国平均と比較して、下回っている
「測定」 全国平均と比較して、下回っている
「変化と関係」 全国平均と比較して、下回っている
「データの活用」 全国平均と比較して、下回っている

【今回の調査における課題】

- 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する
- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する
- 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと

【改善の方向】

- 数字の操作に終始するのではなく、約分や通分の意味を理解した上で、異分母の計算に取り組むようにする。その中で、単位分数についても扱い、仲間と意見を交流させる場面を設けることで、単位分数の必要感を感じられるようにする。
- 垂直や平行の意味を捉えられるよう、生活場面で見られる垂直と平行を取り扱う。意味を捉えた上で、性質について学習し、作図へとつなげていくことで、理解を伴った学習活動になると考える。
- 単元末にその単元で学習した内容を活用した問題に取り組むことで、理解を深めるとともに、必要な情報の取捨選択ができるようにする。

【理科】

「エネルギー」を柱とする領域
「粒子」を柱とする領域
「生命」を柱とする領域
「地球」を柱とする領域

全国平均と比較して、下回っている
全国平均と比較して、上回っている
全国平均と比較して、下回っている
全国平均と比較して、ほぼ同程度であるが、やや上回る

【今回の調査における課題】

- 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている
- ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果や問題に対するまとめを基に、他の条件での結果を予想して、表現する
- 発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現する

【改善の方向】

- 子どもの素朴概念を単元の初めに引き出す。事物現象と素朴概念の違いから問題を見だし、自分たちで解決の見通しをもって実験を計画していく。結果を基に、妥当な考えを導き出し、新たに生まれた問題に向き合っていく。このようなプロセスを踏めるよう意図的に授業を構築することで、理解の伴った知識・技能が身に付くと考える。
- 問題を解決する場面で、個別探究と協働探究が位置付くよう授業を構築する。そうすることで、必然的に表現する場面が生まれる。そして、教師が見方や考え方を引き出し、価値付ける関わりをすることで、子どもたちの発想力や表現力が少しずつ身に付いていくと考える。